

実施日	視察先	視察項目	備考
4月24日	愛知県 豊田市	豊田市駅前通り北地区市街地再開発事業について	
4月25日	愛知県 瀬戸市	アグリカルチャー推進プロジェクトについて	

視察先	項目	調査内容
豊田市	豊田市駅前通り北地区市街地再開発事業について	<p>豊田市の中心市街地は、愛知環状鉄道新豊田駅と名鉄豊田市駅の周辺であるが、昭和60年以降、5回に分けて再開発事業を行っており、今回視察した駅前通り北地区で一旦再開発事業は完了したとのことだった。豊田市駅から東に延びるこの地区は、豊田市駅から豊田スタジアムに向かう駅前通りの北側に位置し、大小の小売店や飲食店などが立ち並ぶエリアであった。</p> <p>このエリアは、オーバーストア状態であり、商業機能導入の限界を感じていた。そこで市民アンケートなども募り、シネマコンプレックスを中心とした時間消費型商業施設、高齢者福祉施設、集合住宅などにより、昼夜間人口の拡大、中心市街地の活性化、交通環境及び都市防災機能の向上を図ることとした。特に、高齢者福祉施設を取り入れた点は、全国的に見ても少ない事例と言える。</p> <p>特徴については、駅に近い側に店舗、事務所、アミューズメント施設を、中央に高齢者施設を、駅から遠い側に住宅棟を配置している。高齢者施設の導入は、分譲と違って、事業成立性、採算性の観点から勇気</p>

		<p>ある選択だと思われる。3棟ともに1階と2階に商業施設を配置し，駅から住宅棟に向かう途中のにぎわいを創出するよう配置されている。</p> <p>最後に資金計画については，1.6ヘクタールの区画面積である本事業の総事業費が231億4,000万円で，そのうち，国，県，市の補助金は総事業費の約59%の136億円余りであった。</p> <p>昼夜間人口の拡大にかける豊田市の思いが感じられた。</p>
瀬戸市	アグリカルチャー推進プロジェクトについて	<p>農業振興策の「アグリカルチャーネットワーク構想」を発表した，平成21年度，瀬戸市では遊休農地の増加，農業者の減少，生産性低下といった課題を抱えていたことから，これらの対策として平成21年度末に「アグリカルチャーネットワーク構想」を打ち出し，農と食での融合を図り，地場産業の再生，農業者の増大を目指すとともに，新たな都市近郊型農業政策を推進することを目指した。</p> <p>そのための基本戦略として地域活性化，地域振興，市民参加の実践，環境調和型，新たな産業の創出，地域資源を活用した観光戦略を他地域との差別化の戦略として打ち出した。</p> <p>平成22年度から推進協議会を立ち上げており，その取り組みは，大きく5つ，遊休農地対策，人材育成，生産性向上，加工品開発支援及び販売・流通である。これを柱として，具体的には遊休農地対策として，小学校5年生を対象とした教育ファーム，市民</p>

		<p>農園及び市民菜園としての活用，人材育成では，期間2カ月間の野菜づくりコースと期間6カ月間の担い手コースの農業塾を開講，それぞれ年平均二，三十世帯が受講する。</p> <p>生産性向上支援については，瀬戸市の農産物出荷額の半分以上を占める豚肉に注力し，ブランド化のため，主食にまぜる添加物を統一し，市の花であるツバキからとれるツバキ油に含まれるオレイン酸を主食にまぜて食べさせ，これをもって瀬戸豚のブランド化を図ろうとした。餌の統一については，柏市の幻想ポークを視察し，「食パンの耳からヒントをいただいた。」と感謝された。</p> <p>つい先日まで順調にいていたが，ニュースでも取り上げられたように，豚コレラにより，ちょうど委員会で視察させてもらった前日までに1万2,000頭全てが殺処分され，現在，今後の対応について検討中とのことだった。</p> <p>これらの取り組みにより，2010年から2015年の間に近隣市では約2割減少している基幹的農業従事者数，農業就業人口が，ともに維持できているとのことだった。</p>
--	--	--